

Docket # 4569
INV.: Kenzou KASSAI
etal.

AB

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 08-175394

(43) Date of publication of application : 09.07.1996

(51) Int.CI.

B62B 9/12

(21) Application number : 06-322981

(71) Applicant : APRICA KASSAI INC

(22) Date of filing : 26.12.1994

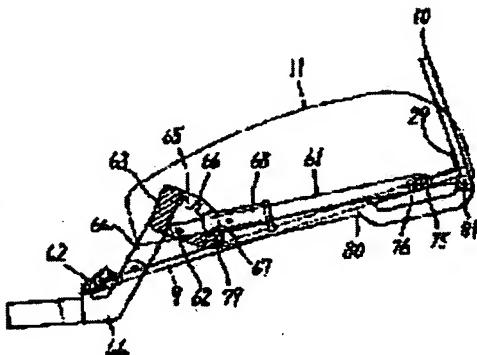
(72) Inventor : ONISHI ICHIRO
KASAI KENZO

(54) SEAT OF STROLLER

(57) Abstract:

PURPOSE: To provide a stroller seat in which, when a backrest portion is relatively raised, a head guard portion is substantially flush with the backrest portion, while when the backrest portion is fully folded down the head guard portion is held raised from the upper end of the backrest portion.

CONSTITUTION: A backrest core 9 as held by a backrest holding member 61 via a connecting mechanism comprising a combination of an oblong hole 75 and a pin 76. With the backrest core 9 fully folded down, the pin 76 is located at the end of the oblong hole 75 and thereby the backrest core 9 is moved toward its lower end so that a head guard core 10 rotatably connected to a control member 80 is forced into a standing position by the movement of the backrest core 9.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 10.10.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3385118

[Date of registration] 27.12.2002

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

USPS EXPRESS MAIL
EV 338 198 487 US
SEPTEMBER 04 2003

#4569

USPS EXPRESS MAIL
EV 338 198 487 US
SEPTEMBER 04 2003

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-175394

(43)公開日 平成8年(1996)7月9日

(51) Int.Cl.
B 62 B 9/12識別記号 庁内整理番号
A

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全10頁)

(21)出願番号 特願平6-322981
(22)出願日 平成6年(1994)12月26日

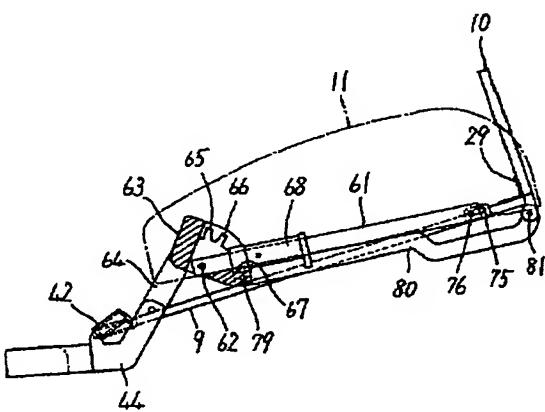
(71)出願人 390006231
アップリカ▲葛▼西株式会社
大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-13
(72)発明者 大西 伊知郎
大阪市中央区島之内1丁目13番13号 アップリカ▲葛▼西株式会社内
(72)発明者 ▲葛▼西 健造
大阪市中央区東心斎橋1丁目14番9号
(74)代理人 弁理士 深見 久郎 (外3名)

(54)【発明の名称】 乳母車の座席

(57)【要約】

【目的】 背もたれ部が比較的立ち上った状態では、ヘッドガード部を背もたれ部と実質的に一平面上に並ぶ状態とし、背もたれ部が最も倒れた状態では、ヘッドガード部を背もたれ部の上方端から立ち上った状態にするようにされた、乳母車の座席を提供する。

【構成】 長穴75とピン76との組合せからなる連結機構を介して背もたれ芯材9を背もたれ保持部材61によって保持する。背もたれ芯材9が最も倒れたときには、ピン76が長穴75の端部に位置することによって背もたれ芯材9がその下方端側へ移動され、制御部材80に回動可能に連結されたヘッドガード芯材10が背もたれ芯材9の移動によって立ち上がる状態に強制される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 座部と、

前記座部の後方端から立ち上がりかつ傾斜角度変更可能に設けられた背もたれ部と、

前記背もたれ部の上方端に回動可能に連結されたヘッドガード部と、

前記背もたれ部の変更された傾斜角度を固定するための傾斜角度固定手段と、

前記背もたれ部が比較的立ち上がった状態では、前記ヘッドガード部を前記背もたれ部と実質的に一平面上に並ぶ状態にもたらし、他方、前記背もたれ部が最も倒れた状態では、前記ヘッドガード部を前記背もたれ部の上方端から立ち上がった状態にもたらすように制御する、制御手段とを備える、乳母車の座席において、

前記傾斜角度固定手段は、前記背もたれ部の回動中心とは異なる定位置にある回動中心を中心として回動可能かつ複数の角度で固定可能な背もたれ保持部材を備え、

前記背もたれ保持部材は、前記背もたれ部の延びる方向に延びる長穴と前記長穴内に移動可能に受け入れられるピンとの組合せからなる連結機構を介して前記背もたれ部に連結されるとともに、前記背もたれ部は、その延びる方向に移動可能とされ、前記背もたれ部が比較的立ち上がった状態で傾斜角度を変える間は、前記長穴内で前記ピンが移動することによって前記背もたれ保持部材の動作が前記背もたれ部に伝達されず、他方、前記背もたれ部が最も倒れた状態では、前記ピンが前記長穴の端部に位置することによって前記背もたれ保持部材の動作が前記背もたれ部に伝達され、それによって、前記背もたれ部は、その下方端側へ移動され、

前記制御手段は、前記背もたれ保持部材の回動中心より後方の定位置にある回動中心を中心として回動可能な制御部材を備え、

前記制御部材は、前記ヘッドガード部に回動可能に連結され、前記ヘッドガード部と前記制御部材との連結点は、前記ヘッドガード部と前記背もたれ部との連結点より前記背もたれ部の背面側に位置されることを特徴とする、乳母車の座席。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、乳母車の座席に関するもので、特に、その背もたれ部が最も倒れた状態ではベッド状となる座席に関するものである。

【0002】

【従来の技術】乳母車の座席としては、座部と背もたれ部とを備える椅子型のものが普及している。このような座席において、その背もたれ部が傾斜角度変更可能に設けられることが多い。また、このような背もたれ部の傾斜角度変更範囲に関しては、座席をベッド状とすることができる程度に背もたれ部が倒されるようにすることが好ましい。

【0003】乳母車に関する安全基準では、ベッド状となった座席に対しては、ヘッドガード部を取付けることが義務付けられている。ヘッドガード部は、乳母車に乗せられた乳幼児の頭の上面と対向して配置されるもので、乳幼児がベッド状の座席からその頭をはみ出したり、さらには頭から滑り落ちたりすることを防止するものである。

【0004】上述のヘッドガード部は、座席がベッド状となったときにのみ必要とされる。したがって、乳幼児の座り心地の観点からは、背もたれ部が比較的立ち上がった状態にあるときにまでヘッドガード部が乳幼児の頭上に存在するのは好ましくない。したがって、背もたれ部が比較的立ち上がった状態では、ヘッドガード部が背もたれ部と実質的に一平面上に並び、背もたれ部がベッド状にまで倒れた状態において初めてヘッドガード部が乳幼児の頭の上面に対向するように位置されることが望ましい。

【0005】上述の要望を満たし得る乳母車の座席が、たとえば、本件出願人による特公昭58-33149号公報に記載されている。

【0006】この従来の技術では、ヘッドガード部の姿勢を制御するため、剛性の連結リンクが用いられ、この連結リンクの変位量を、ガイド孔とそこに移動可能に受け入れられるガイドピンとの組合せを備えるカム機構によって制御されるように構成されている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述したガイド孔とガイドピンとの組合せを備えるカム機構は、比較的高い寸法精度が要求され、たとえば、ガイド孔の加工精度やカム機構の組立精度が悪い場合には、連結リンクが所望のごとく変位せず、その結果、ヘッドガード部が所望のごとく動作しないことがある。

【0008】それゆえに、この発明の目的は、上述した問題を解決し得る乳母車の座席を提供しようとするることである。

【0009】

【課題を解決するための手段】この発明は、座部と、座部の後方端から立ち上がりかつ傾斜角度変更可能に設けられた背もたれ部と、背もたれ部の上方端に回動可能に連結されたヘッドガード部と、背もたれ部の変更された傾斜角度を固定するための傾斜角度固定手段と、背もたれ部が比較的立ち上がった状態では、ヘッドガード部を背もたれ部と実質的に一平面上に並ぶ状態にもたらし、他方、背もたれ部が最も倒れた状態では、ヘッドガード部を背もたれ部の上方端から立ち上がった状態にもたらすように制御する、制御手段とを備える、乳母車の座席に向けられるものであって、上述した技術的課題を解決するため、次のような構成を備えることを特徴としている。

【0010】すなわち、前記傾斜角度固定手段は、背も

たれ部の回動中心とは異なる定位置にある回動中心を中心として回動可能かつ複数の角度で固定可能な背もたれ保持部材を備える。

【0011】上述の背もたれ保持部材は、背もたれ部の延びる方向に延びる長穴と長穴内に移動可能に受け入れられるピンとの組合せからなる連結機構を介して背もたれ部に連結されるとともに、背もたれ部は、その延びる方向に移動可能とされる。背もたれ部が比較的立ち上がった状態で傾斜角度を変える間は、長穴内でピンが移動することによって背もたれ保持部材の動作が背もたれ部に伝達されず、他方、背もたれ部が最も倒れた状態では、ピンが長穴の端部に位置することによって背もたれ保持部材の動作が背もたれ部に伝達され、それによって、背もたれ部は、その下方端側へ移動される。

【0012】また、前記制御手段は、背もたれ保持部材の回動中心より後方の定位置にある回動中心を中心として回動可能な制御部材を備える。

【0013】上述の制御部材は、ヘッドガード部に回動可能に連結され、ヘッドガード部と制御部材との連結点は、ヘッドガード部と背もたれ部との連結点より背もたれ部の背面側に位置される。

【0014】

【作用】上述したように、背もたれ部は、その延びる方向に移動可能とされている。他方、ヘッドガード部と制御部材との連結点は、ヘッドガード部と背もたれ部との連結点より背もたれ部の背面側に位置されている。このような状況において、ヘッドガード部と制御部材との連結点を仮に定位置に置きながら、背もたれ部をその下方端側へ移動させると、ヘッドガード部は、背もたれ部の上方端から立ち上がった状態となるように回動される。

【0015】このように、ヘッドガード部と制御部材との連結点に対して背もたれ部がその下方端側へ移動されるのは、背もたれ部が最も倒れた状態にもたらされようとするときである。すなわち、このとき、ピンが長穴の端部に位置することによって、背もたれ保持部材の動作が背もたれ部に伝達され、それによって背もたれ部がその下方端側へ移動される。そして、このとき、ヘッドガード部と制御部材との連結点は、実質的に定位置に保たれるので、前述したように、ヘッドガード部が背もたれ部の上方端から立ち上がった状態になるように回動される。

【0016】他方、背もたれ部が比較的立ち上がった状態で傾斜角度を変える間は、これに応じて背もたれ保持部材の傾斜角度も変わり、背もたれ部と背もたれ保持部材との連結位置にずれが生じる。このようならずれは長穴内でピンが移動することによって吸収され、上述したように、背もたれ保持部材の動作が背もたれ部に伝達されない。このように、背もたれ保持部材の動作が背もたれ部に伝達されないと、ヘッドガード部に対して動作が与えられず、したがって、ヘッドガード部は、背もたれ部

と実質的に一平面上に並ぶ状態に維持される。

【0017】

【発明の効果】このように、この発明によれば、背もたれ部が比較的立ち上がった状態で傾斜角度を変える間は、ヘッドガード部は、背もたれ部と実質的に一平面上に並ぶ状態に維持され、他方、背もたれ部が最も倒れた状態では、ヘッドガード部が背もたれ部の上方端から立ち上がった状態となるように強制される、乳母車の座席が得られる。したがって、ヘッドガード部は、その本来の機能を果たさなければならない場合にのみ、その機能を果たし得る状態となるので、背もたれ部が比較的立ち上がった状態において、ヘッドガード部が乳幼児の頭上に覆い被さることがなく、乳幼児に対して不快な感じを与えることがなく、また、ベッド状とされたときには、乳幼児の頭の上面に対向するようにヘッドガード部が位置されるので、安全性の高いものとすることができます。

【0018】また、上述したように、ヘッドガード部に對して好ましい動作を与えるための機構は、比較的高い加工精度や組立精度が要求されるカム機構を用いないので、設計が容易になるとともに、加工または組立の誤差の許容範囲を比較的大きくすることができる。

【0019】

【実施例】図1および図2は、この発明の一実施例による座席1を備える乳母車2を示す斜視図である。座席1は、座部3と、座部3の後方端から立ち上がりかつ傾斜角度変更可能に設けられた背もたれ部4と、背もたれ部4の上方端に回動可能に連結されたヘッドガード部5と、背もたれ部4の両側方端から立ち上がる1対のサイドガード部6とを備える。図1では、背もたれ部4が比較的立ち上がった状態にあり、また、ヘッドガード部5が背もたれ部4と実質的に一平面上に並ぶ状態にある。他方、図2では、背もたれ部4が最も倒れた状態があり、また、ヘッドガード部は、背もたれ部4の上方端から立ち上がった状態にある。

【0020】このような座席1の表面は、たとえば布のような可撓性のカバーシート7によって与えられる。カバーシート7には、好ましくは、適当なクッション材が付加される。このようなカバーシート7を取り除いた状態が、図3および図4に示されている。図3は、図1に対応し、図4は、図2に対応する。また、図5は、乳母車2を折りたたんだ状態を示していて、この図面においても、カバーシート7が取除かれている。

【0021】座部3、背もたれ部4、ヘッドガード部5およびサイドガード部6は、それぞれ、剛性の比較的高い材料からなる板状の座芯材8、背もたれ芯材9、ヘッドガード芯材10およびサイドガード芯材11を備え、これら芯材8～11によって各々の形状が維持される。なお、図3ないし図5では、サイドガード芯材11は、図1ないし図4において想像線で示されている。

【0022】図3と図5とを対比すればわかるように、この乳母車2が折りたたまれるとき、幅方向での折りたたみ動作が生じる。このような乳母車2の幅方向での折りたたみ動作を許容するため、座芯材8、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10は、それぞれ、乳母車2の側面と平行に延びる2つの分割線によって分割された3つの座板12～14、3つの背もたれ板15～17、および3つのヘッドガード板18～20を備える。このような座芯材8、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10の詳細は、図6ないし図11に示されている。

【0023】図6は、図3に示した状態に対応する状態を示し、図7は、図4に示した状態に対応する状態を示している。また、図8は、図6の線VIII-VIIIに沿う断面図であり、図9は、図6の線IX-IXに沿う断面図である。また、図10および図11は、乳母車2の折りたたみ動作に応じて与えられる座芯材8、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10の形態を示すもので、図10は、折りたたみ途中の状態を示し、図11は、折りたたみ後の状態すなわち図5に示した状態に相当する状態を示す。

【0024】3つの座板12～14の隣り合うもの相互、3つの背もたれ板15～17の隣り合うもの相互、および3つのヘッドガード板18～20の隣り合うもの相互は、それぞれヒンジ接続される。また、背もたれ板15～17の各々とヘッドガード板18～20の各々とは、それぞれ、ヒンジ接続される。これらのヒンジ接続には、たとえば、繰返し屈曲可能な可撓性シート材料からなるヒンジテープ21～29が用いられる。ヒンジテープ21～29は、接着、粘着または溶着等の方法により、所定の箇所に貼着される。なお、座板12～14、背もたれ板15～17およびヘッドガード板18～20が樹脂の成形により得られる場合には、これらヒンジテープ21～29を、成形のための金型内にインサートしておき、成形と同時にヒンジテープ21～29の貼着を達成するようにしてもよい。

【0025】ヒンジテープ21および22は、座板12～14の下面側に位置される。ヒンジテープ23および24は、背もたれ板15～17の背面側に位置される。ヒンジテープ25および26は、ヘッドガード板18～20の背面側に位置される。ヒンジテープ27～29は、背もたれ板15～17およびヘッドガード板18～20の正面側に位置される。

【0026】このようにして、座芯材8は、図10および図11に示すように、上方へ折り曲げられることができ、背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10は、前方へ折り曲げられることができる。また、図7に示すように、ヘッドガード芯材10は、背もたれ芯材9の上方端から立ち上がった状態となるように折り曲げられることができる。

【0027】座板12～14が実質的に一平面上に並ぶ

状態となったとき、図8によく示されているように、隣り合う座板12および13は、互いに突き合わされる端面30および31をそれぞれ有し、また、隣り合う座板13および14は、互いに突き合わされる端面32および33をそれぞれ有する。このようにして、座芯材8は、図10および図11に示すように折り曲げ可能であるが、図8等に示すように実質的に一平面上に並ぶ状態とされたときには、端面30および31相互ならびに端面32および33相互の突き合わせにより、その平面形状が強固に維持される。したがって、座席1に乗せられる乳幼児の体重によって、座部3の中央部が下方へ落ち込むことを抑制でき、乳幼児に不自然な疲労を与えることを防止できる。

【0028】同様の配慮が、背もたれ芯材9にも払われている。図9によく示されているように、背もたれ板15～17が実質的に一平面上に並ぶ状態となったとき、隣り合う背もたれ板15および16は、互いに突き合わされる端面34および35をそれぞれ有し、また、隣り合う背もたれ板16および17は、互いに突き合わされる端面36および37をそれぞれ有する。このようにして、背もたれ芯材9は、図10および図11に示すように折り曲げ可能であるが、一様な平面をなしたときは、その平面状態が強固に維持される。

【0029】同様の配慮が、ヘッドガード芯材10にも払われている。ヘッドガード芯材10が実質的に一平面上に並ぶ状態となったとき、図11に参照符号を記入したように、隣り合うヘッドガード板18および19は、互いに突き合わされる端面38および39をそれぞれ有し、また、隣り合うヘッドガード板19および20は、互いに突き合わされる端面40および41をそれぞれ有する。

【0030】上述したような端面相互の突き合わせによる平面状態の維持は、好ましくは、図6に示した背もたれ芯材9とヘッドガード芯材10とが実質的に一平面上に並ぶ状態を維持するため、背もたれ板15～17とヘッドガード板18～20との間にも採用される。

【0031】前述したように、背もたれ芯材9に関しては、図9によく示されているように、端面34～37の突き合わせにより、背もたれ板15～17が実質的に一平面上に並ぶ状態が維持される。しかしながら、図2、図4および図7に示すように、背もたれ部4すなわち背もたれ芯材9が最も倒された状態では、比較的立ち上がった状態に比べて、乳幼児のより多くの体重が背もたれ芯材9に加わることになる。そのため、背もたれ部4がその中央部において落ち込む傾向がある。この実施例では、このような背もたれ部4の落ち込みは、ヘッドガード芯材10の存在によりかなり抑制されることができる。

【0032】すなわち、図7によく示されているよう、背もたれ芯材9が最も倒されたときには、ヘッドガ

ード芯材10は、背もたれ芯材9の上方端から立ち上がる状態となっていて、ヘッドガード芯材10は、背もたれ芯材9の撓み強度を増すように作用している。その結果、背もたれ部4の落ち込みが抑制され、乳幼児に対して好ましい座り心地を与えることができるとともに、乳幼児の脊髄が不自然に変形されることを防止できる。

【0033】この乳母車2の折りたたみ動作に応じて、図10および図11に順次示すように、座芯材8および背もたれ芯材9がそれぞれ上方および前方へ折り曲げられるとともに、座芯材8の上面と背もたれ芯材9の前面とが互いに近づくように座芯材8と背もたれ芯材9とが回動される。このような折りたたみの状況からわかるように、座芯材8と背もたれ芯材9とは互いに干渉するように動作する。したがって、この干渉を緩和するための措置が講じられなければ、図5に示すような乳母車2の折りたたみ状態を得ることができない。

【0034】この対策のため、この実施例では、背もたれ芯材9に備える中央の背もたれ板16の下方端が可撓性のベルト42によって保持される。ベルト42は、その各端部が1対のベルト取付部材43および44にそれぞれ取付けられながら、これらベルト取付部材43および44の間に渡される。より詳細には、ベルト42は、背もたれ板16の下方端に設けられた2つのスロット45および46に順次通されることにより、背もたれ板16を保持する状態とされる。他方、ベルト取付部材43および44には、それぞれ、ベルト42の各端部に形成されたループ状部分に挿入されるリング47および48が形成される。

【0035】ベルト取付部材43および44は、乳母車2の両側部に位置され、乳母車2の幅方向での折りたたみ動作に応じて互いに近づくものである。ベルト取付部材43および44は、それぞれ、乳母車2の後脚49および50に取付けられたアングル部材51および52に取付けられる。ベルト取付部材43および44は、それぞれ、図8に示すように、シャフト53および54を保持する。シャフト53および54は、それぞれ、座板12および14の各下面に設けられた軸受部55および56内に受け入れられ、軸受部55および56において各々の軸線周りに回転可能である。シャフト53および54の各前方端は、それぞれ、乳母車2の前脚57および58に取付けられたブラケット59および60によって保持される。

【0036】乳母車2の開いた状態では、ベルト42は、比較的緊張した状態を保っている。したがって、背もたれ芯材9の下方端は、安定した位置に保たれる。

【0037】乳母車2が折りたたまれるとき、1対のベルト取付部材43および44は互いに近づく。これによって、座芯材8および背もたれ芯材9はそれぞれ上方および前方へ折り曲げられるとともに、ベルト42が緩められる。したがって、座芯材8の上面と背もたれ芯材9

の前面とが互いに近づくように座芯材8と背もたれ芯材9とが回動され、座芯材8が背もたれ芯材9にカバーシート7を介して衝突したとき、背もたれ芯材9は、その衝突に応じて、座芯材8との干渉を避けるように変位する。その結果、座芯材8と背もたれ芯材9との干渉によって、乳母車2の折りたたみ動作の進行が妨げられることが防止される。

【0038】なお、上述したような座芯材8と背もたれ芯材9との相対的な動きを許容するため、カバーシート7には、座部3と背もたれ部4との境界部分において弛みが持たされている。

【0039】背もたれ芯材9の前方への折り曲げ動作を生じさせる機構については後述する。

【0040】次に、図6および図7にそれぞれ示すような背もたれ芯材9およびヘッドガード芯材10の動作を与えるための機構について説明する。

【0041】図12は、乳母車2の側面図である。図12では、乳母車2が部分的に省略または破断されて示されている。なお、図12ないし図18に示される各要素は、乳母車2の両側部において対称に設けられるものであるが、これらの図面を参照しながらの説明は、一方側に設けられる要素についてのみ行なう。

【0042】背もたれ部4の変更された傾斜角度を固定するための傾斜角度固定手段として、背もたれ保持部材61が設けられる。背もたれ保持部材61は、ピン62を回動中心として回動可能に調整ブラケット63に取付けられる。調整ブラケット63は、乳母車2の押棒64上に取付けられる。ピン62は、前述した背もたれ部4の回動中心とは異なる位置にある。

【0043】調整ブラケット63は、図16によく示されているように、複数の係合突起65および66ならびに係合壁67を形成している。

【0044】他方、背もたれ保持部材61上には、背もたれ保持部材61の長手方向に移動可能に係合スリーブ68が設けられる。係合スリーブ68の移動範囲は、図17によく示されているように、係合スリーブ68に保持されたピン69とこれを受入れるように背もたれ保持部材61に設けられた長手のガイド穴70とによって規定される。係合スリーブ68の一方端には、前述した係合突起65および66に選択的に係合する係合部71が設けられる。係合部71が係合突起65および66に係合する方向へ移動するように係合スリーブ68を付勢するため、ばね72が、係合スリーブ68の一部と背もたれ保持部材61に固定された当接部材73との間に配置される。係合スリーブ68の他方端には、ばね72の弹性に抗して、係合部71が係合突起65および66から離れる方向へ係合スリーブ68を移動させるように操作するための操作部74が設けられる。

【0045】このようにして、操作部74に指を掛けるなどして、ばね72の弹性に抗して係合スリーブ68を

移動させ、係合部71を係合突起65および66から離した状態としたとき、背もたれ保持部材61は、ピン62を中心として回動可能な状態となる。そして、図16に示すように、係合部71を係合突起65に係合させたとき、背もたれ保持部材61は、図13に示すように、最も立ち上がった状態で固定される。また、係合部71が係合突起66に係合したときには、図14に示すように、背もたれ保持部材61は中間的な傾斜状態で固定される。さらに、係合スリーブ68が係合壁67に当接したときには、図15に示すように、背もたれ保持部材61は最も倒れた状態で固定される。

【0046】前述したサイドガード芯材11の下方端部が、図16および図17に想像線で示されている。サイドガード芯材11の下方端部は、ピン62によって保持される。

【0047】背もたれ保持部材61の上方端が図18に示されている。背もたれ保持部材61は、背もたれ部4の延びる方向に延びる長穴75と長穴75内に移動可能に受け入れられるピン76との組合せからなる連結機構を介して背もたれ部4に連結される。より具体的には、背もたれ保持部材61の上方端にピン76が設けられる。他方、長穴75は、背もたれ部4に含まれる背もたれ芯材9の一部である背もたれ板17の側部に取付けられた連結ブラケット77に設けられる。連結ブラケット77は、ピン78を中心として回動可能なように背もたれ板17に取付けられる。このピン78を中心とする回動は、前述した第10図および第11図に示すような背もたれ芯材9の折り曲げを可能とするものである。

【0048】なお、背もたれ保持部材61と背もたれ部4とを連結するための長穴75とピン76との組合せからなる連結機構において、図示の実施例とは逆に、長穴が背もたれ保持部材61側に設けられ、ピンが背もたれ部4側に設けられていてもよい。

【0049】図18において想像線で示すように、サイドガード芯材11の上方端は、背もたれ保持部材61と連結ブラケット77との間に位置され、ピン76によって保持される。したがって、サイドガード芯材11は、背もたれ保持部材61と一緒に動作する。

【0050】図12ないし図16に示すように、調整ブラケット63において、ピン62より後方に位置されるピン79を回動中心として回動するよう、制御部材80が設けられる。図18には、制御部材80の上方端が示されている。制御部材80は、ピン81を介して、ヘッドガード部5に回動可能に連結される。より具体的には、ヘッドガード部5に含まれるヘッドガード芯材10の一部であるヘッドガード板20の側部に取付けられた連結ブラケット82に対して、ピン81を介して制御部材80が回動可能に連結される。連結ブラケット82は、ピン83を介してヘッドガード板20に連結される。したがって、連結ブラケット82は、ピン83を中心とし

て、ヘッドガード板20に対して回動可能である。この回動は、図10および図11に示すようなヘッドガード芯材10の前方への折り曲げを許容する。

【0051】上述したヘッドガード部5と制御部材80との連結点、すなわちピン81は、ヘッドガード部5と背もたれ部4との連結点、すなわちヒンジテープ27～29によって与えられるヒンジ軸より、背もたれ部4の背面側に位置される。

【0052】背もたれ部4、より特定的には背もたれ芯材9は、前述したように、乳母車2の本体部分に対してベルト42を介して保持され、また、背もたれ保持部材61に対して、長穴75とピン76との組合せからなる連結機構を介して保持されているので、その延びる方向に移動可能である。

【0053】図13に示すように、背もたれ芯材9が最も立ち上がった状態では、ヘッドガード芯材10と背もたれ芯材9とは実質的に一平面上に並んだ状態となっている。そして、ピン76が長穴75の一方端すなわち上方端に位置している。

【0054】次に、図14に示すように、背もたれ芯材9が中間的な傾斜状態をとったときには、制御部材80が、ヘッドガード芯材10を介して背もたれ芯材9を上方へ引き上げる。すなわち、背もたれ芯材9は、その延びる方向において上方端側へ移動される。このとき、ピン76は、長穴75の他方端すなわち下方端側へ移動するだけであり、背もたれ保持部材61の動作は背もたれ芯材9には何ら伝達されない。したがって、ヘッドガード芯材10が背もたれ芯材9と実質的に一平面上に並ぶ状態は維持される。

【0055】次に、図15に示すように、背もたれ芯材9が最も倒された状態では、既にピン76が長穴75の下方端に位置しているので、背もたれ保持部材61の動作が背もたれ芯材9に伝達され、それによって背もたれ芯材9はさらにその下方端側へ移動される。このとき、ピン81はヒンジテープ27～29が与えるヒンジ軸より背もたれ部4の背面側に位置されるとともに、ピン81の位置が制御部材80によって維持されているので、上述した背もたれ芯材9の移動に応じて、ヘッドガード芯材10が回動され、背もたれ芯材9の上方端から立ち上がった状態にもたらされる。このようにして、図2に示すように、ヘッドガード部5が背もたれ部4の上方端から立ち上がった状態が得られる。

【0056】逆に、図15に示した状態から図13に示した状態に戻したときには、ヘッドガード芯材10は、背もたれ芯材9と実質的に一平面上に並ぶ状態にもたらされる。なお、図15に示した状態から図14に示した状態に戻したときには、背もたれ芯材9が中間的な傾斜状態に戻されるが、ヘッドガード芯材10が背もたれ芯材9の上方端から立ち上がった状態が維持されてしまう。したがって、図14に示したように、ヘッドガード

芯材10が背もたれ芯材9と実質的に一平面上に並ぶ状態にするには、ヘッドガード芯材10すなわちヘッドガード部5に、直接、力を加えて、これを強制的に回動させることが行なわれる。なお、一旦、図13に示す状態に戻してから、再び図14に示した状態に移行されれば、上述したようなヘッドガード部5に対する操作は不要である。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例による座席1を備えた乳母車2の全体を示す斜視図である。

【図2】図1に示した乳母車2の全体を示す斜視図であり、背もたれ部4を最も倒した状態を示す。

【図3】図1に相当する図であって、座席1のカバーシート7を除去した状態を示す。

【図4】図2に相当する図であって、座席1のカバーシート7を除去した状態を示す。

【図5】図1に示した乳母車2を折りたたんだ状態を示す斜視図であって、座席1のカバーシート7を除去した状態を示す。

【図6】図3に示した座席1に関連する構成を示す斜視図である。

【図7】図4に示した座席1に関連する構成を示す斜視図である。

【図8】図6の線VIII-VIIIに沿う断面図である。

【図9】図6の線IX-IXに沿う断面図である。

【図10】図6に示した構成を示す斜視図であり、乳母車2の折りたたみ動作の途中の状態を示す。

【図11】図5に示した乳母車2の座席1に関連する構成を示す斜視図である。

【図12】図4に示した乳母車2を部分的に破断または省略して示す側面図である。

【図13】背もたれ芯材9の傾斜角度を変更するための

機構を示す側面図であり、背もたれ芯材9が最も立ち上がった状態を示す。

【図14】図13に相当する図であって、背もたれ芯材9の中間的な傾斜状態を示す。

【図15】図13に相当する図であって、背もたれ芯材9が最も倒れた状態を示す。

【図16】図13の主要部を拡大して示す側面図である。

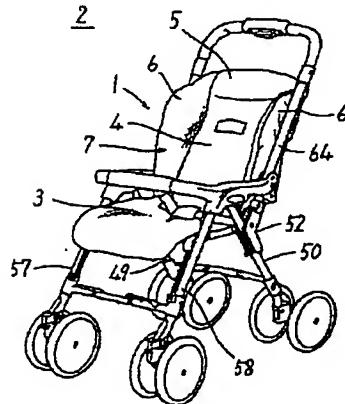
【図17】図16の線XVII-XVIIに沿う断面図である。

【図18】図13の状態にある背もたれ芯材9の上方端付近を示す斜視図である。

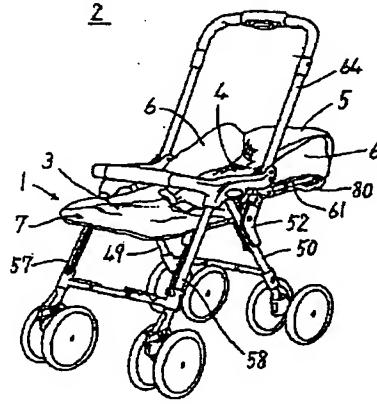
【符号の説明】

1	座席
2	乳母車
3	座部
4	背もたれ部
5	ヘッドガード部
9	背もたれ芯材
10	ヘッドガード芯材
21~29	ヒンジテープ
42	ベルト
61	背もたれ保持部材
62, 76, 79, 81	ピン
63	調整ブラケット
65, 66	係合突起
67	係合壁
69	係合スリーブ
71	係合部
75	長穴
77, 82	連結ブラケット
80	制御部材

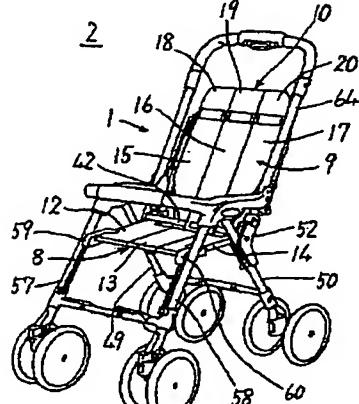
【図1】



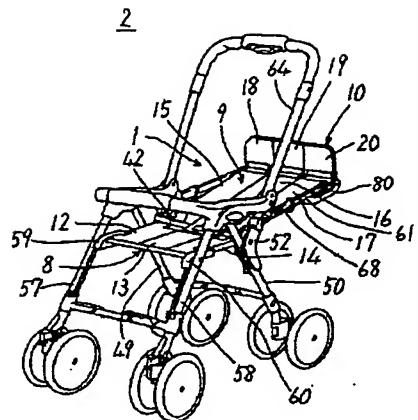
【図2】



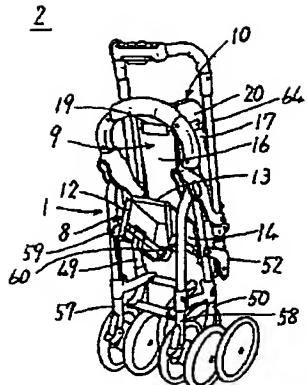
【図3】



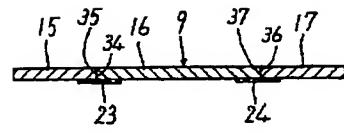
【図4】



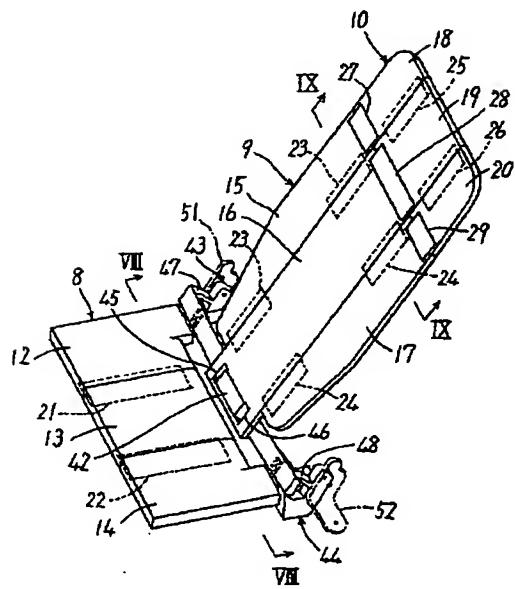
【図5】



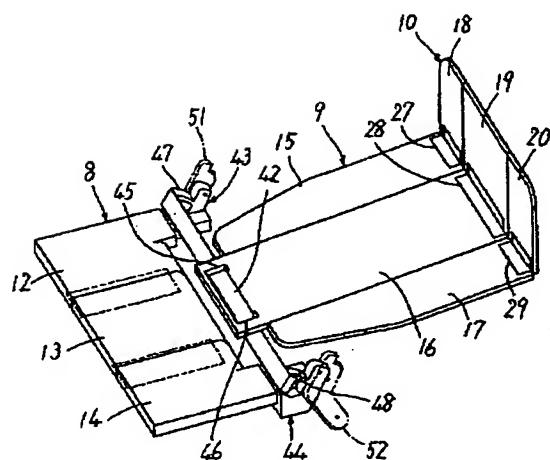
【図9】



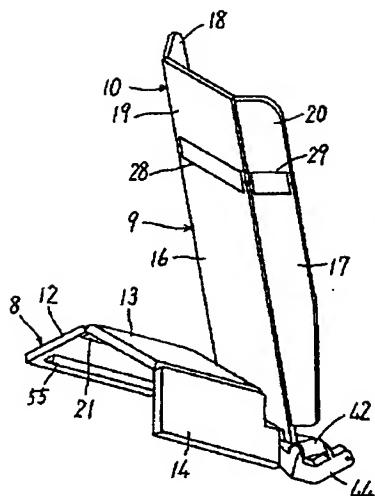
【図6】



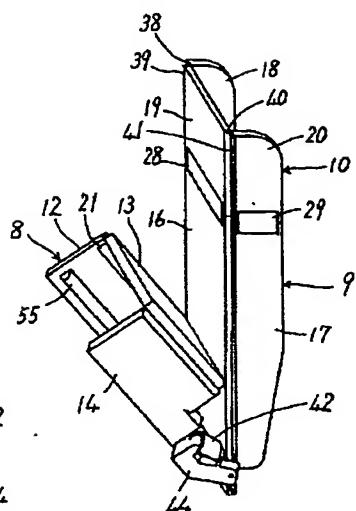
【図7】



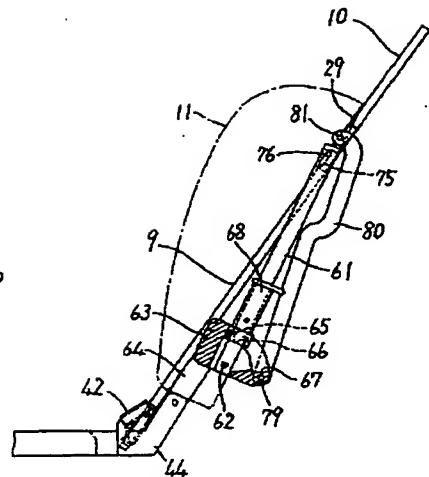
【図10】



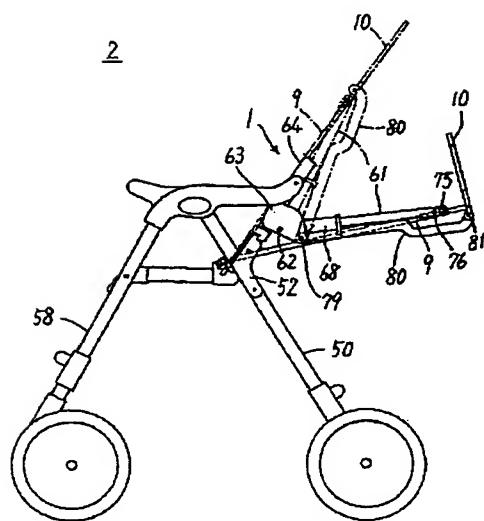
【図11】



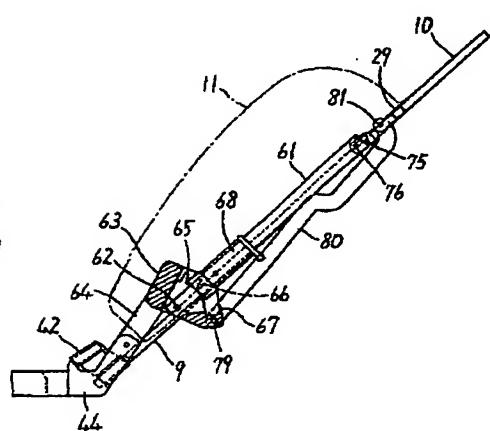
【図13】



【図12】



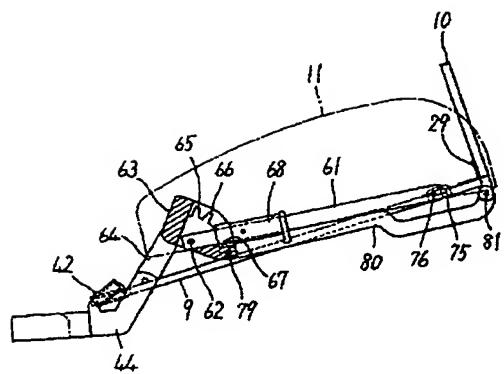
【図14】



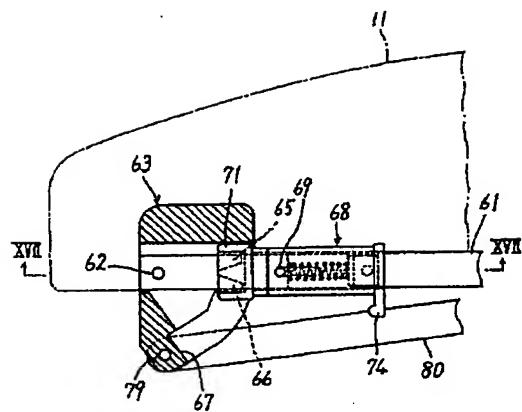
(10)

特開平8-175394

【図15】



【図16】



【図18】

